

一般質問

9 田中 茂 (新風天草)



●ファシリティマネジメント(※)の推進による適正配置と財政支出の削減
●まちづくりバンクについて

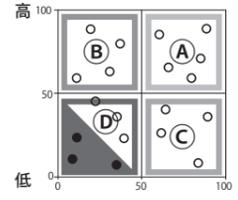


田中 「天草市公共施設等総合管理計画」において、施設の維持補修・更新のピーク時期、金額は、今後見直し変更はないのか。上位計画の第2次市総合計画の2020年目標値12億円の削減達成は、**総務部長** 全ての施設を更新すると仮定して、令和6年がピークで200億円となる。ハコモノのみで年72億円の将来負担を見込む。計画自体の大幅変更はなく、目標達成できるように進める。

田中 「公共施設等再配置・個別施設計画」の第一期削減目標数値等の設定がない。市民や議会の理解につながる目標設定を。**総務部長** 建物の状態や利用状況を基にした「ポートフォリオによる評価」で、著しく評価が低い施設は第二期で原則廃止の目標としている。

田中 今後の公共施設の削減、新たな建設、管理運営に公民連携を。**市長** 削減の取組は重要課題。な

【ポートフォリオによる建物の状態の評価】



- A 建物の状態が良く、利用も多い
→単独でも存続すべき施設
- B 利用は多いが、建物が老朽化している
→施設の更新、代替施設への移転を検討すべき施設
- C 建物の状態は良いが、利用は少ない
→用途廃止・転用等を検討すべき施設
- D 建物が老朽化し、利用も少ない
→廃止を検討すべき施設

※ファシリティマネジメント：施設や設備等の財産を経営資産と捉え、経営的視点に基づいた総合的な視点でコスト最小、効果最大といった最適化を図りながら、戦略的かつ適正に管理・活用していくための手法

くはならない財産」のみを保有していく。策定プロセスにおいて民間の声を聞き、必要性、運営視点などを盛り込む仕組みをできるだけ導入していく。**田中** まちづくりバンクの創設について、市長の思いを。**市長** 市政テーマに「つながるチカラでまちづくり」を掲げている。その礎となる取組であり、来年度からのスタートを目指す。

10 五通 俊作 (公明党)



●離島航路について
●繁殖牛の生産基盤強化について



五通 口之津港～鬼池港間の航路が離島航路に位置付けられると、どうなるのか。**地域政策課長** 離島航路に位置付けられると、地元自治体等で構成する協議会で離島航路確保維持計画を策定し、承認を受けることにより、国から運航欠損額に対する支援を受けることができる。また、同協議会で航路改善計画を策定し、承認を受けることで国から船舶建造費用に対する支援を受けることができる。

市長 天草地域において、口之津～鬼池航路は日常生活や産業・観光、地域振興の面でも重要な航路である。今後は、関係自治体と連携し、国庫補助航路への認定に向けて取り組んでいきたい。



▲口之津港～鬼池港を結ぶフェリー



▲天草黒牛の放牧

五通 繁殖雌牛増頭の生産基盤強化、耕作放棄地、里山利用について市長の所見を伺う。**市長** 本市は繁殖農家が主流で、黒毛和牛優良血統種の導入等により、市場でも高く評価されている。高齢化や増頭等による作業の効率化・省力化のために、放牧の推進やTMR(混合飼料) 給餌等を推進してきた。畜産業振興は水田農業振興とも密接な関係があり、これまで実施してきた必要な支援の継続、拡充を行い、畜産業、農業の振興に努める。

11 益田 政昭 (市民クラブ)



●人命がかかわる災害が予測された時の避難所について



益田 近年の災害は大型化しており、避難所への避難者数、避難所開設数も増加している。避難所開設の定義は何か。また、天草市全体の避難所の数や職員の配置は。**防災危機管理課長** 大雨の場合は、雨で土壌雨量指数が上昇した場合に避難情報を発令し、避難所を開設する。避難所は第1次避難所と第2次避難所の合計で295か所指定している。令和2年の台風10号時は避難者が増えることを想定し、牛深総合センターの職員体制を2名から4名に増員した。

益田 避難者の大半は高齢者、その家族、友人である。コロナ禍の対応やマット等の不足も目立った。災害時の連絡体制は。**防災危機管理課長** 避難所と支所及び本庁との連携を取り、受付では避難者の検温と体調を確認している。スポンジ製マット等を配布し、健康面への配慮も行っている。

民間宿泊施設等が考えられる。民間の宿泊施設の利用に関する協議はできるか。**総務部長** さまざまな課題もあり、先進事例等、研究したい。**益田** 避難所の安全性と高齢者の健康を守るため職員の健康管理も大事。市職員はコロナワクチンの接種を優先させるべきだ。**市長** 国推進の職域接種は、一般の方のワクチン接種が早く進むことにもつながるため、職員の職域接種の実施を進めていきたい。

くはならない財産」のみを保有していく。策定プロセスにおいて民間の声を聞き、必要性、運営視点などを盛り込む仕組みをできるだけ導入していく。**田中** まちづくりバンクの創設について、市長の思いを。**市長** 市政テーマに「つながるチカラでまちづくり」を掲げている。その礎となる取組であり、来年度からのスタートを目指す。



12 脇島 義純 (天政会)



●市長から見た天草の現状と今後の対応
●前市長の政策継承「道の駅・競技場・御所浦の博物館」
●御所浦の架橋建設について



脇島 担い手不足、後継者不足について、馬場市長から見た天草の現状と今後の対応は。**市長** 今こそ私達大人が常に前向きに天草の可能性について語り、前へ前へとチャレンジして町を盛り上げていかなければならない。地域の魅力や価値を上げていかなければならない。さまざまな取組を組み合わせ、子どもが残れる、帰ってこられる「ふるさと」にするため、チャレンジしていきたい。

脇島 「少子化」小規模校の将来を見据えての対応は。**教育部長** 地域住民の方々や地域の関係機関等と学校の将来のあるべき姿を共有し、十分な理解や協力を得ながら進めていきたい。**教育長** 学校行事等の際には、複数校が連携しての参加や開催、小・中学校や地域との合同開催など、状況や目的に応じ柔軟に運用することが必要だと考える。児童生徒の健全な育成のため、小・中学校

はもとより保護者や地域の皆様と協働して解決に向けた取組を進めたい。**脇島** 町の生き残りをかけた御所浦架橋建設の再開は。**市長** 今後も県への要望書は継続して提出し、回答を強く求めている。地元の皆様が直接知事の考えを聞きたい事に関しては知事と交渉し、機会を設けていただくよう努力する。

